

やさしい旅 ヘルプ ③

介護施設に迎える観光バスが到着すると、一瞬とよめきが起こり、待ちわびた参加者に笑顔が広がった。待ちに待った旅行出発の日だ。

地域交通の担い手

バスの入り口にあるステップは、車いすを使う人には大きなバリアーだ。旅はおろか、ちょっとしたお出掛けへの期待もほとんどしまつという。しかし、リフト付き観光バスを利用することも可能な時代。重い電動車いすでも乗降できる。介護度の軽い人ならヘルパーの介助があれば、少々の段差は乗り越えられる。

バリアフリー進むバス

来、主要バスターミナルの整備が進み、半数以上のバスが低床型となり、段差の苦手なお年寄りも乗降しやすくなった。車いす用スペースも確保され、乗り合わせた人の理解も広がっている。

ただ、普及している低床型バスは、スロープの出し入れをドライバーが行わなければならないタイプが多い。運行中に席を離れるドライバーの負担が大きく、安全上の問題もある。よりバリアフリーを進めるにはターミナルや停留所も改善する必要があるが、特

バス旅行を支えているのは元気なシニア層だが、今後は、足腰に多少の痛みを抱えるようになっても参加しやすいバス旅行の企画も望まれるようになるだろう。

自治体などが運行するコミューティバスは、交通弱者である高齢者らの生活の足ともはや欠かせないものになっている。急速に進む高齢

化でバスはますます重要になっていく。東北の復興支援ではボランティアアツトリズムに地元バス会社が活躍しているが、地域に密着したバス事業は、住民の暮らしを支えるインフラそのものだ。公共サー



路線バスでも低床型がかなり普及してきた—東京都青梅市

ビスを担い、そこで働く人たちを開いてほしい。ちの暮らしを守る持続可能な（日本トラベルヘルパー協会）企業として、新しい時代を切り理事長・篠塚恭一